

# 看護部生涯教育

日時：R4年3月1日（火） 16時40分から17時30分

場所：新王子病院 4F 会議室A

テーマ：「日々の会話から

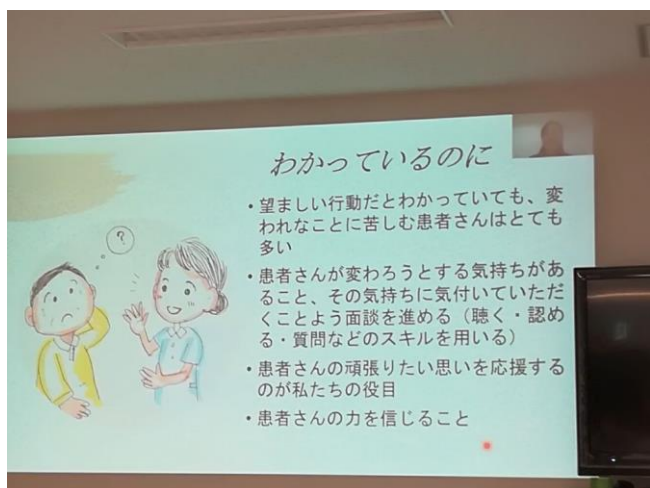
コーチングスキルを活用した患者支援」

講師：天使病院 患者サポート支援室 糖尿病・代謝センター看護師 森山 由希子先生

BD マイクロファインプロ インスリンの誤針防止の新商品の紹介



| 会話例                                                                                              |                                          | 患者                                                       |                             |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------|----------------------------------------------------------|-----------------------------|
| 言葉                                                                                               | 心の声                                      | 言葉                                                       | 心の声                         |
| Bさん、こんにちは<br>お昼でまだお話しを<br>したいと思います。HbA1Cの値を気にさ<br>れているんですね                                       | 少し元気がないわ                                 | こんにちは、なかなか、難しいわ・・・<br>そうだね、わかっているけど、いざ数字<br>をみると、ガッカリするわ | しんどいな<br>今日もガッカリ、早く帰<br>りたい |
| 今日の検査結果はBさんの期待から外<br>れた結果だったということでしょう<br>か？<br>（相手の言葉をしっかり受け止め（傾聴）、確認<br>のクローズドクエスチョン）           | Bさん、落ち込んでいる<br>どうしたいのかな                  | なかなか、思うようにはいかないよ。<br>診察を持っている時、試験を受けに来<br>ているような気分になるんだ  | 本当にしんどいわ                    |
| このところBさんは辛い気持ちで受診<br>されているんですね                                                                   | は嫌だなんて、毎朝、辛<br>かったのね・・・早く眠<br>つてあげればよかった | 自分が悪いんだけど、<br>本当はHbA1C7%くらいにはしておき<br>たいな・・・              | 眠いはあるけど、行動は<br>出来ないの・・・     |
| ご自分を責められているんですね・・・<br>しかし、Bさんは目標値をしっかり意<br>識されていますね。手帳を見せていた<br>いでもよろしいでしょうか？<br>一緒に作業会議しませんか・・・ | 辛い思いからなんとか<br>強が見えるようになって<br>ほしいな        | はい、お願いします                                                | そうか、作業か                     |



最近インスリンによる誤針が続いており、防止のための針の新製品の説明とその針を使って自分たちも一切血糖測定を行いました。日ごろの自分の血糖値の予測を立て実際の血糖がジュースを摂取した前後で知ることが出来ました。今回は2部構成になっており糖尿病患者へのコーチングについて動画にて研修がありました。どうしても私たちは、透析患者様に対しても糖尿病患者様に対しても自己管理が出来ない方に対して一方的に指導してしまいがちです。コミュニケーションを十分に行いゆっくり患者に傾聴し主体的な言葉と行動を引き出してあげることが大切だということが分かりました。今後の看護に役立てていきたいと思ひます。